

日本学術会議 課題別委員会
持続可能な長寿社会に資する学術のロードマップ分科会（第3回）
議事要旨

日時： 平成 22 年 11 月 2 日（火）10:30～12:00

会場： 日本学術会議 6-C（2） 会議室

持続可能な長寿社会に資する学術のロードマップ分科会（21 名中 15 名）

出席：秋山弘子（委員長）・井藤英喜（副委員長）・桑野園子（幹事）・住居広士（幹事）・
樋口美雄・大内尉義・長田久雄・直井道子・金川克子・太田喜久子・伊福部達
柴田博・丸山直記・安村誠司・山根源之・

欠席：北 徹・白澤政和・荒井良雄・荒井秀典・岩本康志・芳賀博

議題：

1. 前回議事要旨（案）の確認
2. 今後の進め方について
2. その他

資料

- ・ 前回議事要旨（案）
- ・ 調査実施要領（案）
- ・ 高齢化・長寿化に伴う課題（案）
- ・ 委員名簿
- ・ 提言・報告作成マニュアル

審議

- 1 0 月に国際会議と学会が集中していた。
- 1 1 月中にはアンケート作業を完了する予定である。

第3回「持続可能な長寿社会に資する学術のロードマップ分科会」資料 2010.11.02

1. 「学術のロードマップ策定シート」の確認・修正
2. 「学術のロードマップ策定シート」の実施要領（案）
3. 「報告書構成（案）の確認・検討」

1. 「学術のロードマップ策定シート」の確認・修正

高齢化・長寿化に伴う課題（案）

前回資料エクセル表の領域・社会的課題・具体的内容・時期を検討した。

老化のプロセスの解明と老化の制御を訂正の例として示す。

添付ファイルのワードにて変更履歴を入れてもらう。再整理してからアンケートする。
学術用語を使用しているが、それも校閲してもらう必要がある。
アンチエイジング（抗加齢）→老化制御に変更する。
来週月曜日（11月8日）の締め切りで回収する。
達成期間の設定の校閲もお願いする予定である。

2. 「学術のロードマップ策定シート」の実施要領（案）

主体は日本学術会議

調査対象

① 学術会議委員②学会関係者③自治体関係者④産業界関係者

基本的にはメール調査を実施する。

アンケートの内容を提示して修正する。

11月上旬から下旬にかけて実施する。

研究体制分科会も実態アンケート調査を実施されている。

- ・160個において特に重要な番号を10個まで記入してもらう。
- ・削除あるいは追加すべき課題があれば記入してもらう。

問3 社会的課題及び具体的内容の表現を変更する必要がある。

「社会的課題」の表題を検討する。社会的課題を「中項目」に変更する。

大項目・中項目・小項目の方がロードマップとしてわかりやすい。

解決年度を示す短期・中期・長期の欄はアンケート調査しない。

アンケートの調査内容には、期間は含めない。

将来予測として、達成すべき期間、実現する期間については委員にて検討する。

未来予測として解決すべき期間を予測する。未来解明できるであろう期間の予測である。

優先する研究課題の期間である。領域にてスパンで考える優先する研究課題である。

取り組むべき課題であるが、緊急的な課題を挙げてもらう。

研究課題に関して解決すべき重要性の期間を挙げる。

短期 2015 中期 2020 長期 2030 年として未来予測として検討している。

緊急性の少ない課題や期間の長い課題は軽視される可能性もある。

研究課題の将来予測のインパクトを集約する。

厳密な期間の問いかけではなく、未解決な課題としての期間も考慮する。

社会的実現ではなく研究レベルで解決するのかを未来予測をする。

研究テーマとして成り立つような課題にする。

問3に追加する関連するキーワードを記入してもらう方が新たな課題の発見に繋がる。

回答者の専門性や属性についても、問い合わせる。

性別、年齢、専門性、学会や団体の部署の肩書きが必要である。
日本学術会議委員からアンケートで挙がってくる内容を取り上げる。
一覧表にして、委員の皆様にも校閲してもらって課題を取り上げる。
挨拶文に統計的処理をすることと、研究倫理的配慮を記載する。
回答で使う必要のない個人情報（氏名・電子メール）等は問わない。
研究機構のメーリングリストからも送信する。
あらかじめ了解をとれた学会等の理事会等に問い合わせる。
東大研究機構のコンソーシアム 42 社のメンバーに回答をお願いする。
自治体関係者については、高齢者関連団体にアンケートを行う。
学術会議委員には日本学術会議から問い合わせる。
老化分科会が提言をする文章案があり、それとの整合性を検討する。
研究と教育と政策についても提言をする。
日本学術会議からのアンケート調査案（学術の大型研究計画検討分科会）の資料配付

3. 報告書校正案（資料・ガイドライン、提言案）

提言の統一したガイドラインがある。提言の作成案とガイドラインを提示する。
提言案にて簡潔に各分科会から 5 つ以内の課題にまとめてもらう。
提言は来年 4 月末までに報告する必要がある。
次回各分科会で提言案サマリーの骨子ドラフトを提出してもらう。
提言案は目次あるいは要旨・参考資料等を除いた本文が 24 頁以内である（要旨・目次・はじめに・本文・提言・参考文献・参考資料）。
学術ロードマップは提言の資料として添付する。3 分科会各分科会は約 8000 字である。
追伸：JST 長期的戦略的事業「高齢社会を豊かにする科学技術システムの創生」の学際的課題が採択されて先週から公募される。

次回分科会は 12 月 7 日に日本学術会議で開催する。

10:00～11:30 学術のロードマップ分科会

11:30～13:00 研究体制分科会